

久藤 達郎（くどう・たつろう）

1、プロフィール

青森県師範学校時代より文学活動が始まる。昭和 17 年「たらちね海」で国民演劇脚本情報局賞を受賞。18 年「東風」（「東風の歌」）、30 年民話劇「シガマの嫁コ」等発表。

<生没>

1914(大正3)年7月28日 ~ 1997(平成9)年10月21日

<代表作>

戯曲「たらちね海」「東風の歌」「シガマの嫁コ」

詩集『戦ひの樹』

小説集『運河』

<青森との関わり>

東津軽郡奥内村(現青森市)生まれ。中村小学校を始め、弘前中央高校等に勤務した。戯曲、小説等に活躍する。

2、作家解説

大正3年7月28日、工藤達郎は父祐弥、母まさの長男として東津軽郡奥内村(現青森市)に生まれた。営林署勤務の父の任地である。9年母の郷里鱒ヶ沢町に転住した。10年西海尋常小学校に入学、西海高等小学校を経て、昭和4年師範付属小学校に転校、5年4月青森県師範学校本科第一部に入学した。在学中は雑誌部に入り、副部長、部長となって活躍した。校友会誌に詩や短歌や小説などを発表した。

10年4月、西津軽郡中村尋常小学校で初めて教壇に立った。この頃「東奥日報」の「サンデー東奥」に小説などを発表する。12年に鳴沢尋常小学校へ、14年に西海尋常小学校へ転任した。

15 年上京して、渋谷区の大和田尋常小学校に就職した。この頃、山中研究所の自主制作映画のシナリオに応募、入選した。入選の翌年あたりより戯曲を書き始め、17 年に「たらちね海」で国民演劇脚本情報局総裁賞を受賞した。「たらちね海」は邦楽座で上演され、また、大映で映画化された。18 年「日本演劇」に「東風」（戦後「東風の歌」と改題）を発表している。19 年離京、12 月には県立弘前高等女学校教諭として着任した。

戦後間もなく、劇団薔薇座（千秋実主宰）の旗揚げ公演のために「新樹」を書いた。薔薇座第二回の公演が「東風の歌」である。22 年頃から 37 年頃までローカル放送のために平均月 1 本のラジオドラマを書いた。30 年に発表した民話劇「シガマの嫁コ」の上演は、千回以上にのぼった。

41 年『久藤達郎戯曲集』『戯曲明治の学校』を刊行する。41 年に弘前中央高校から黒石高校教頭に、42 年に鱒ヶ沢高校長となる。51 年から 56 年 3 月まで柴田女子高校長として勤務した。50 年随筆集『普段着と晴れ着』を、55 年小説集『運河』をそれぞれ刊行する。

3、資料紹介

○『久藤達郎戯曲集』

図書

1966(昭和 41)年 1 月 10 日

195mm × 135mm

津軽書房から刊行された。戯曲「東風の歌」「新樹」「万葉の皇子」「宮沢賢治伝」「たらちね海」「シガマの嫁コ」「春の夜」「樽の木大将」「美談」それに小説「綾足伝」が収められている。代表する戯曲が一冊に纏まっている。